

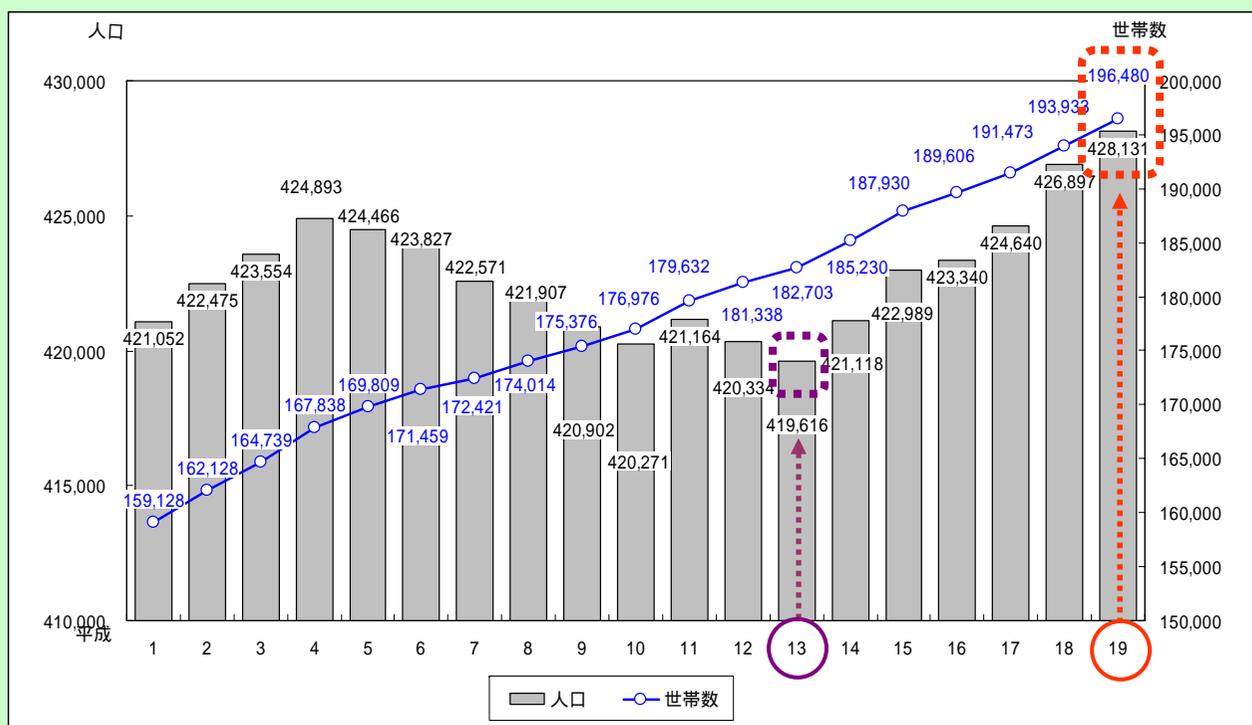
区全体の概況

人口動向 : 人口と世帯数の現況

人口は、平成4年をピークに減少し、平成13年を底に増加傾向にあります（約43万人）

世帯数は、一貫して増加しています（約20万世帯）

人口と世帯数の動向

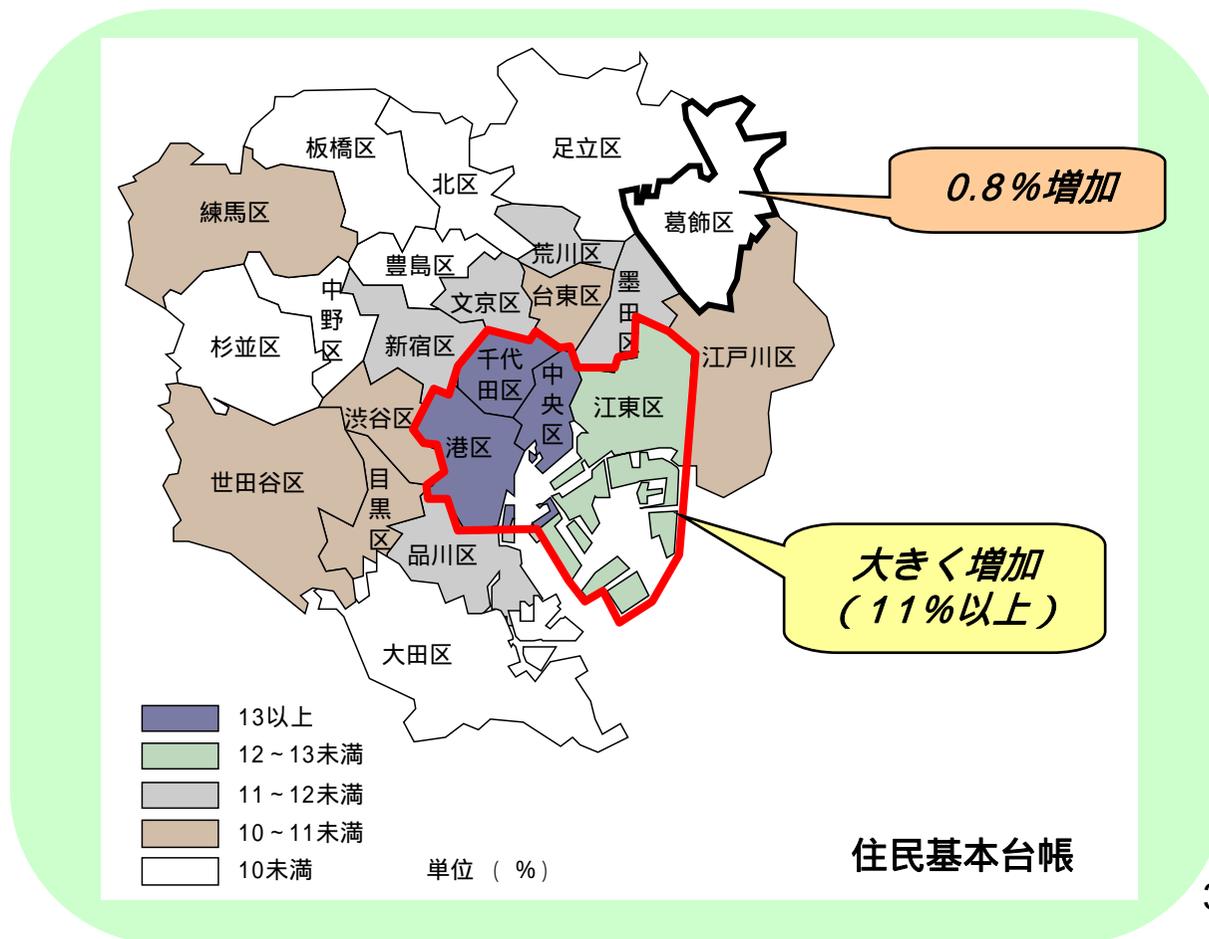


住民基本台帳

人口動向 : 23区との比較

23区の人口は、平成12年から17年にかけて、全区で増加しています
その中でも、千代田区、中央区、港区の都心3区と、江東区の人口が
大きく増加し、人口の都心回帰現象がみられ、本区も微増しています

人口増減率
(平成12年～17年)

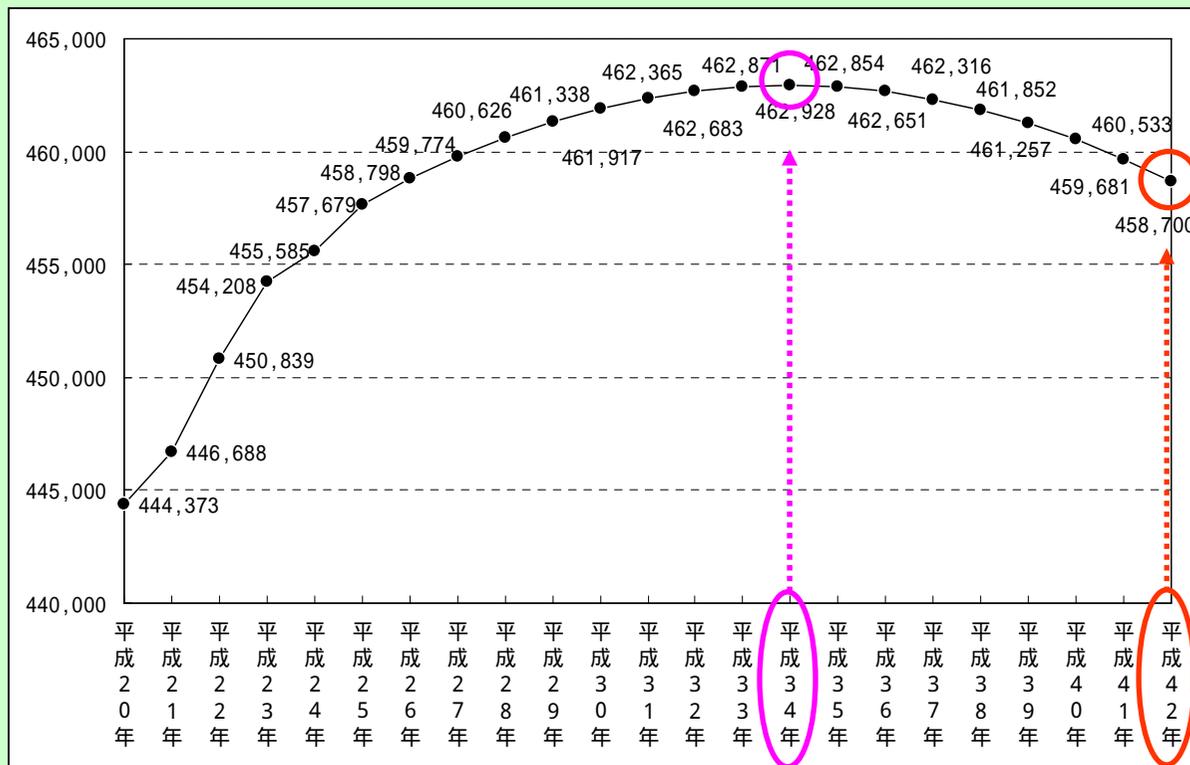


人口動向 : 将来推計

人口は、平成21年以降増加を続けた後、平成34年の46.2万人をピークに減少に転じ、平成42年には45.8万人と推計されています

将来推計

(平成20年～42年)



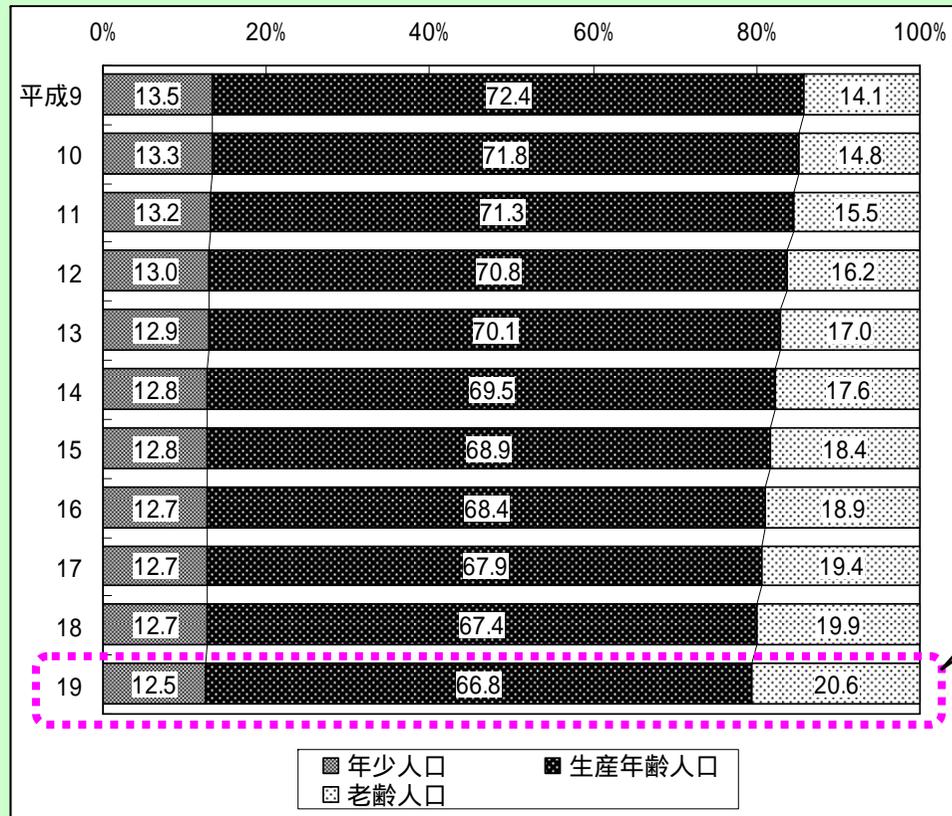
実績値：住民基本台帳、推計値：葛飾区中期実施計画資料

少子高齢化動向 : 少子高齢化の現況

年少人口、生産年齢人口は、近年一貫して減少しています
これに対し、高齢人口は一貫して増加し、高齢化率は、約21%で、
5人に1人が高齢者となっています。

年齢3区分別人口構成の推移

年少人口
0歳～14歳
生産年齢人口
15歳～64歳
高齢人口
65歳以上



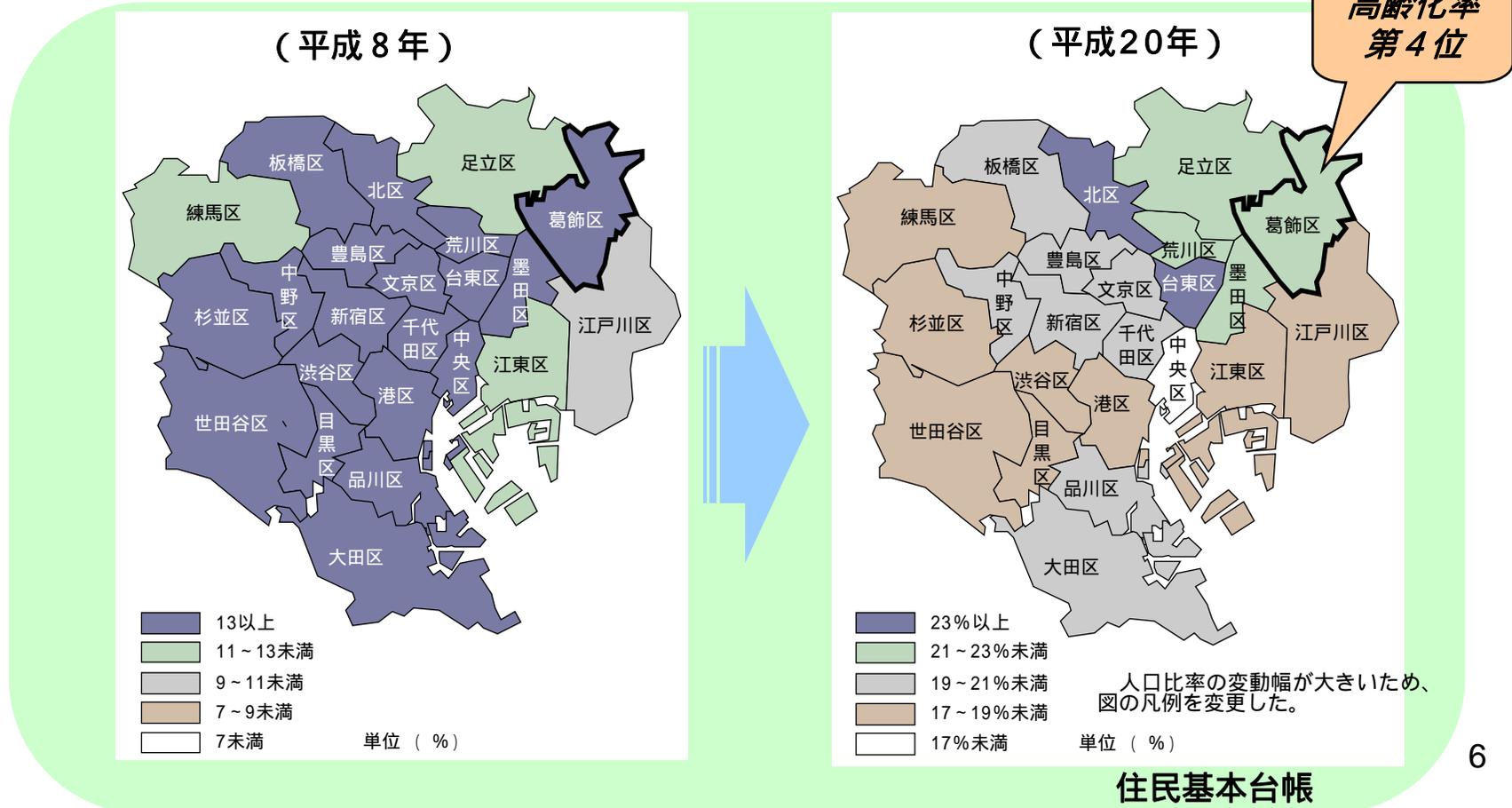
5人に1人が
高齢者

住民基本台帳

少子高齢化動向 : 23区との比較

23区の高齢化率は、北区、台東区が、23%以上と最も高く、荒川区、**本区（21.2%：第4位の高齢化率）**の順になっています
 平成8年と比較して、高齢化が一層進んでいることがうかがえます

65歳以上の人口比率



少子高齢化動向 : 将来推計

平成32年の年少人口（0～14歳）は、5.5万人（11.9%）で、若干増加になると推計されています
老齢人口（65歳以上）は、10.9万人（23.6%）で、概ね4人に1人が高齢者になると、推計されています

男女別人口推計



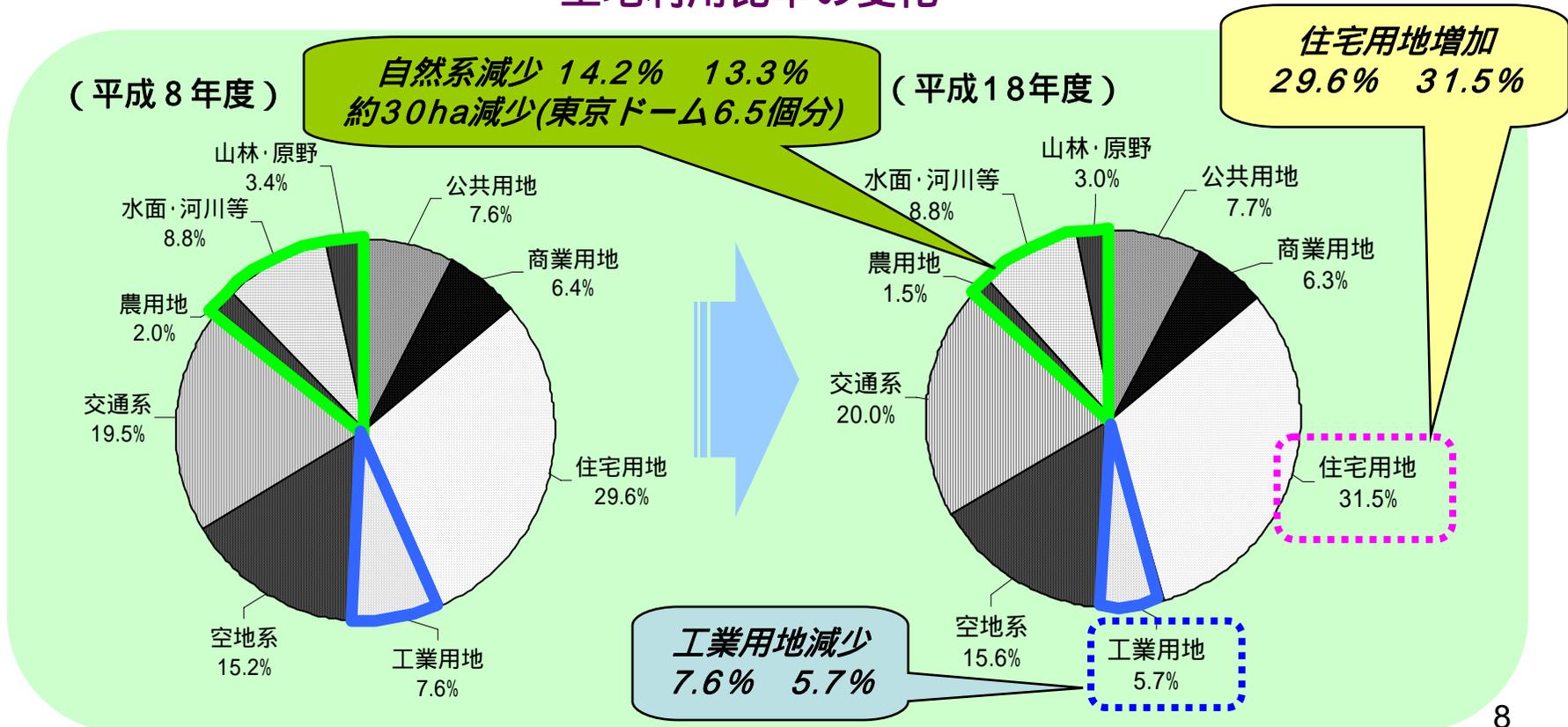
実績値：住民基本台帳、推計値：葛飾区中期実施計画資料

概ね4人に1人が
高齢者

土地利用の状況 : 土地利用比率の変化

土地利用の現況は、住宅用地、交通系（道路等）、空地系が主で、近年いずれも増加しており、そのうち、住宅用地が最も増加しています
一方、工業用地の減少が著しく、農用地、山林・原野などの自然系土地利用も減少しています

土地利用比率の変化



土地利用の状況 : 土地利用現況のゾーニング

土地利用現況から、以下のような特徴がみられます

中川以西の水戸街道沿い、
環七通り、蔵前橋通り
住商混在地域が多い

荒川・中川沿い、新宿地区
住工混在地域が多い

亀有地区
集合住宅が多い

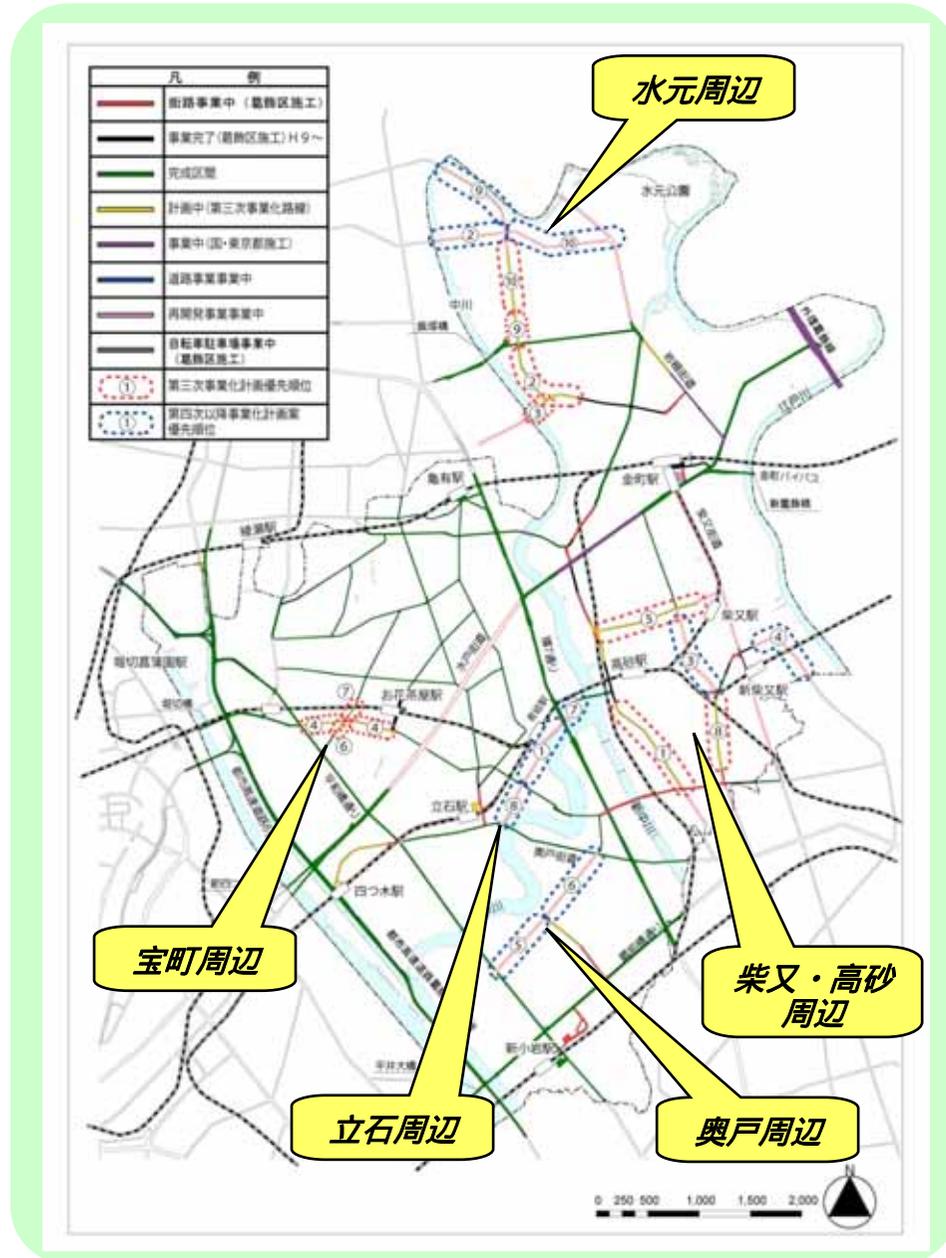


土地利用現況のゾーニング図

都市基盤整備の状況 : 都市計画道路の状況

都市計画道路は、計画延長約91.7kmに対して、完成延長約57.9kmで、整備率は約63%となっています（平成20年4月）

未着手の路線延長は、約25.1km（約27%）で、水元周辺、柴又・高砂周辺、奥戸周辺、立石周辺、宝町周辺などが未整備の状況です



都市計画道路の状況

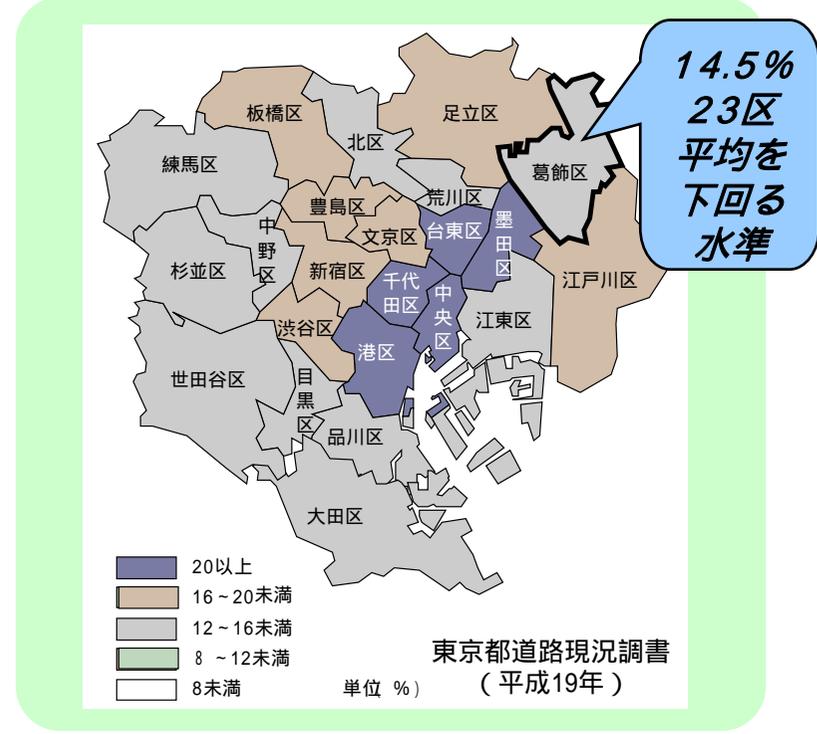
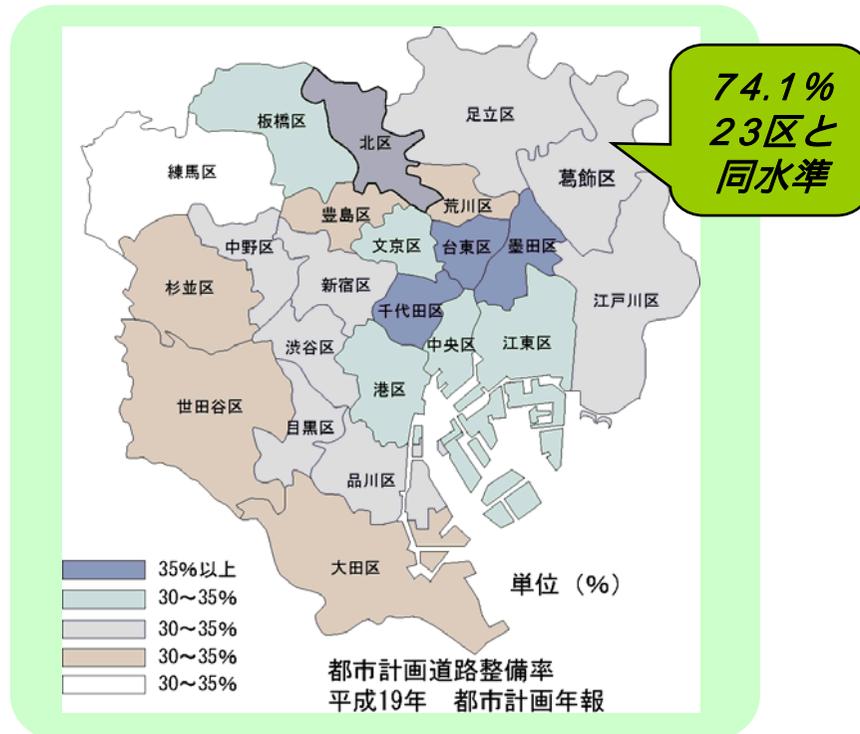
都市基盤整備の状況 : 23区との比較 (道路)

都市計画道路のうち幹線道路の整備率は、23区平均が73.8%ですが、本区は、74.1%であり、ほぼ23区平均に近い水準となっています

道路率は、23区平均が16.0%ですが、本区は14.5%です。狭い幅員の道路が多いことや河川などの水面が多いことが理由として考えられます

都市計画道路(幹線道路)整備率

道路率(区面積に対して道路の占める割合)

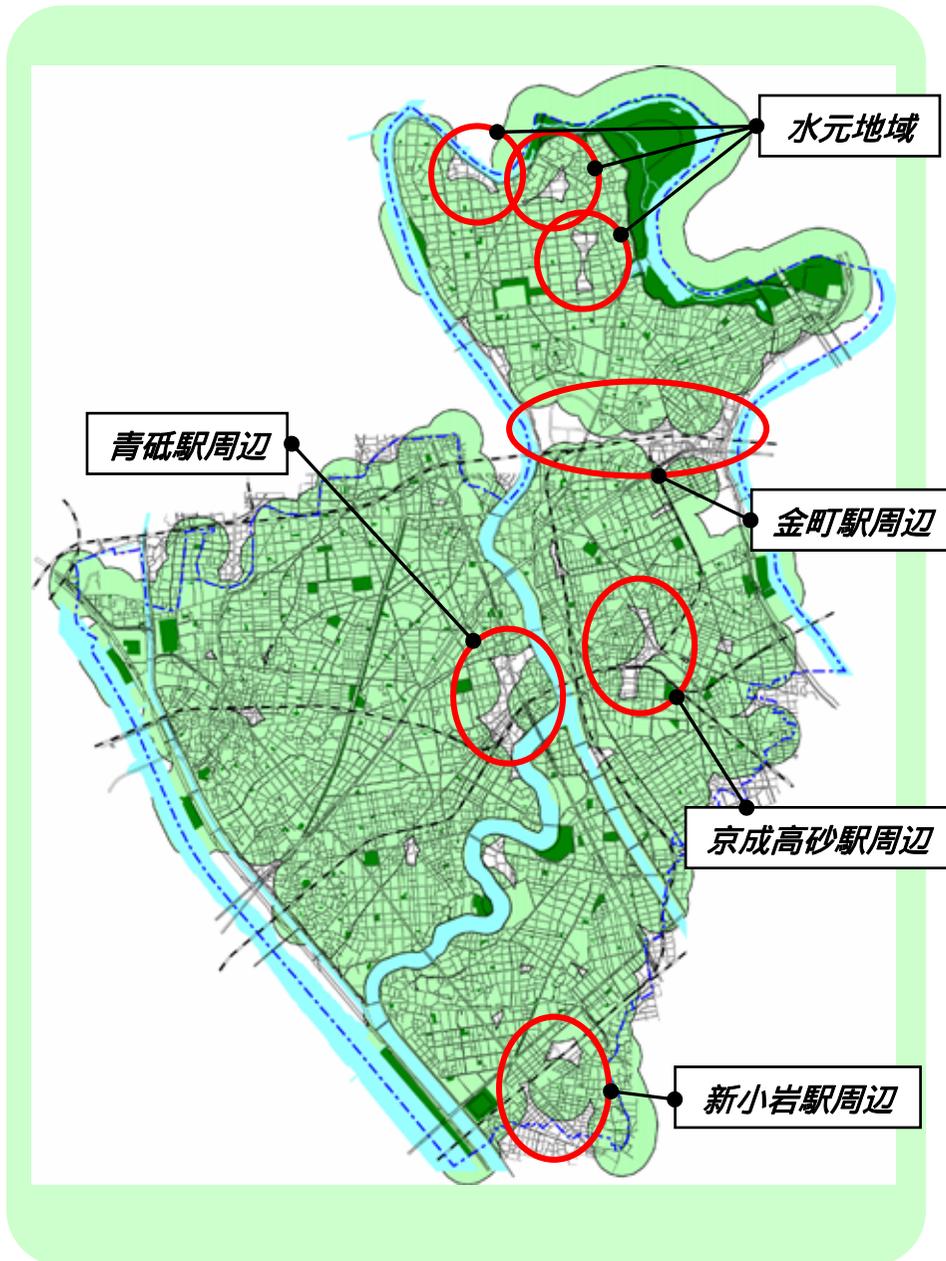


都市基盤整備の状況 : 公園の整備状況

区内の公園は、児童遊園などの小さな公園が多く、児童遊園を含めた公園の誘致圏は、概ね全区をカバーしていますが、水元地域、金町駅周辺、青砥駅周辺、京成高砂駅周辺、新小岩駅周辺では、一部誘致圏からはずれたエリアがみられます

誘致圏とは、緑道を除く現況の公園から250mの範囲内の圏域

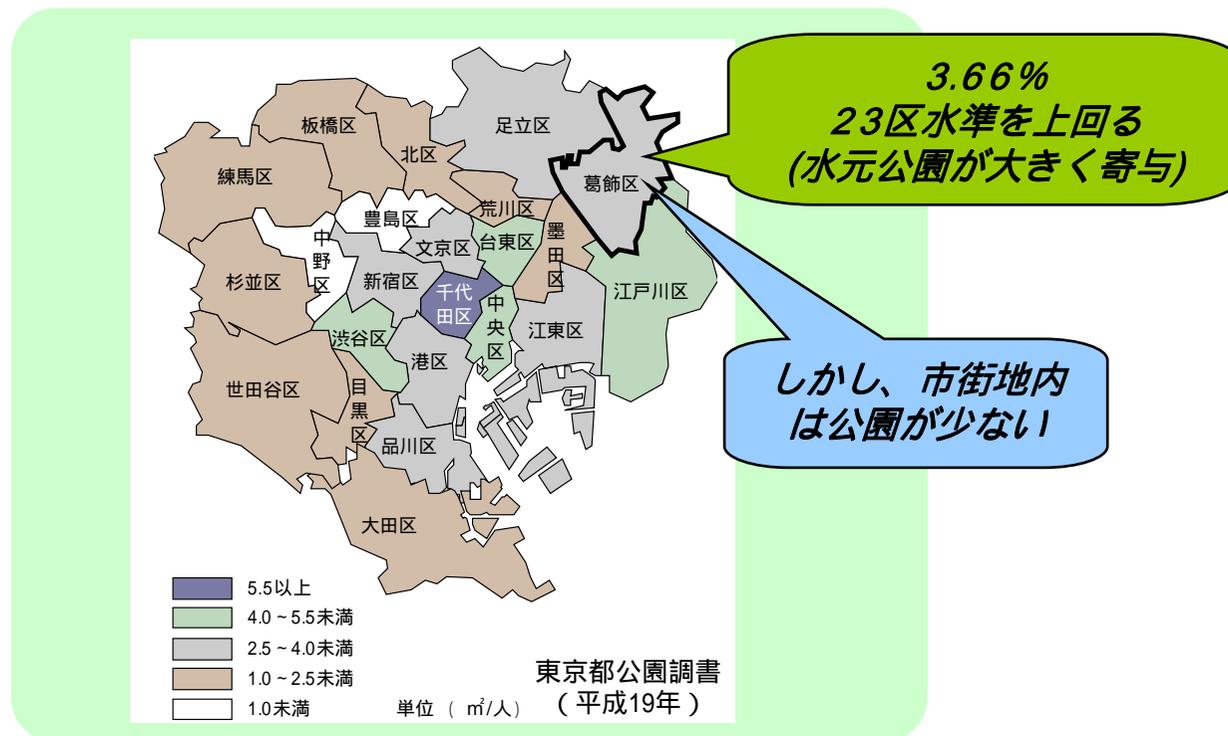
都市公園の位置・誘致圏



都市基盤整備の状況 : 23区との比較（公園）

一人当たりの都市公園面積は、23区平均が2.96㎡ですが、
本区は、3.66㎡であり、**23区平均を上回っています**
これは、水元公園の面積が大きく寄与しているものであり、
市街地内の都市公園は少ない状況です

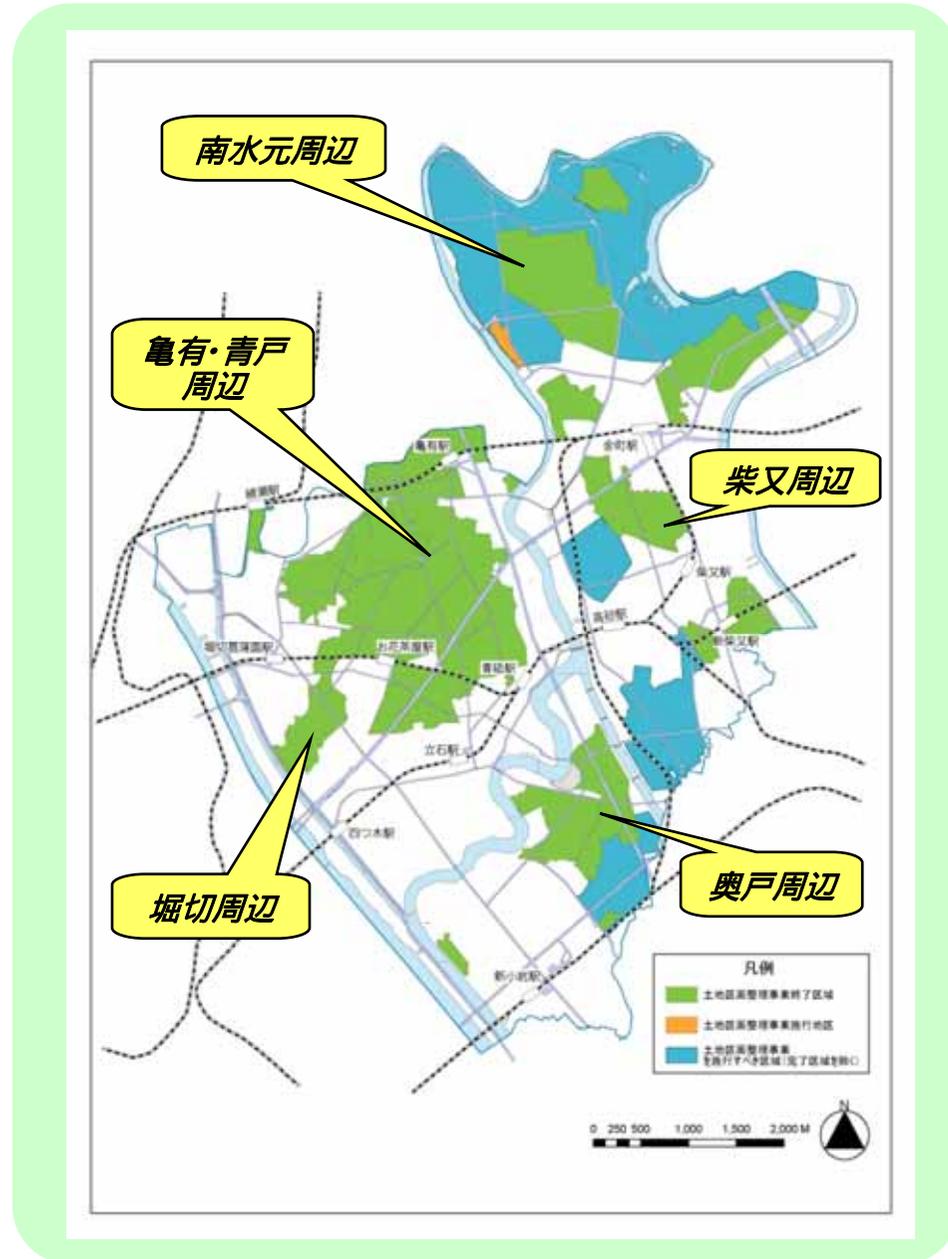
一人当り都市公園面積（平成19年）



都市基盤整備の状況 : 土地区画整理事業の状況

土地区画整理事業の実施状況は、890.4haとなっており、**区全体の約25%**が**土地区画整理事業により都市基盤が整備**されています

その主な地域は、**亀有・青戸周辺**、**堀切周辺**、**奥戸周辺**、**柴又周辺**、**南水元周辺**などです



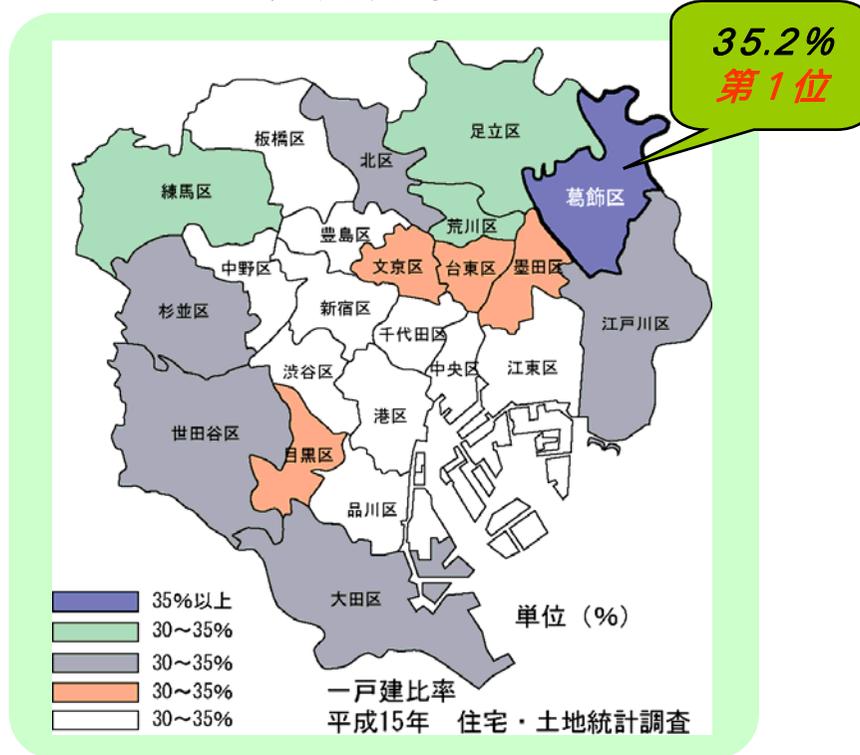
土地区画整理事業の整備状況

住宅：住宅ストックの特性

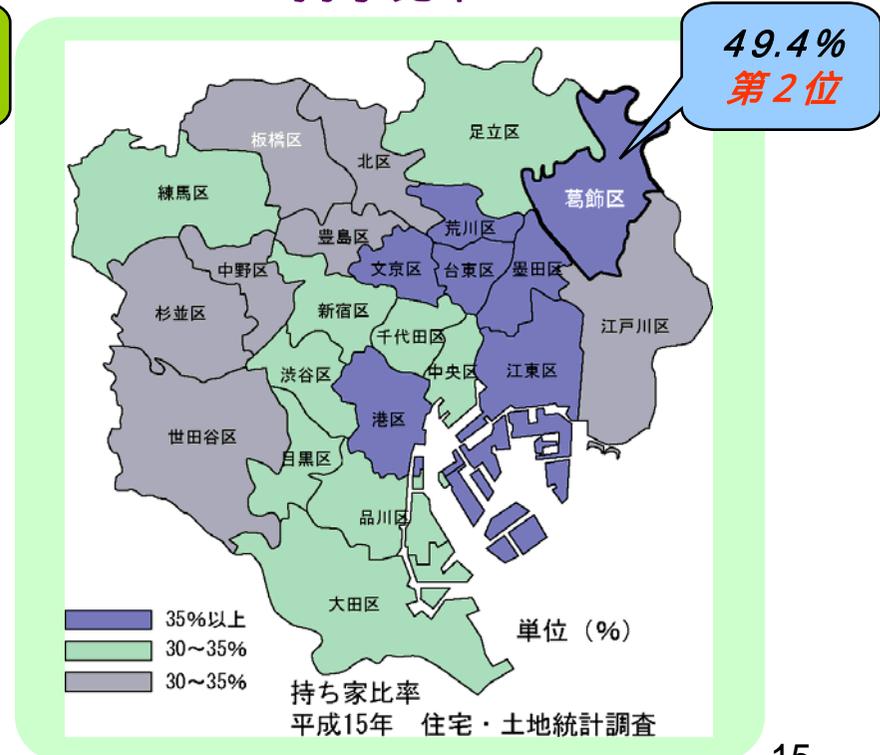
一戸建の比率は、23区平均が23.9%ですが、本区は、35.2%と、23区で最も高い数値となっています

持家の比率は、23区平均が41.8%ですが、本区は、49.4%と、23区で2番目に高い数値となっています

一戸建比率



持家比率

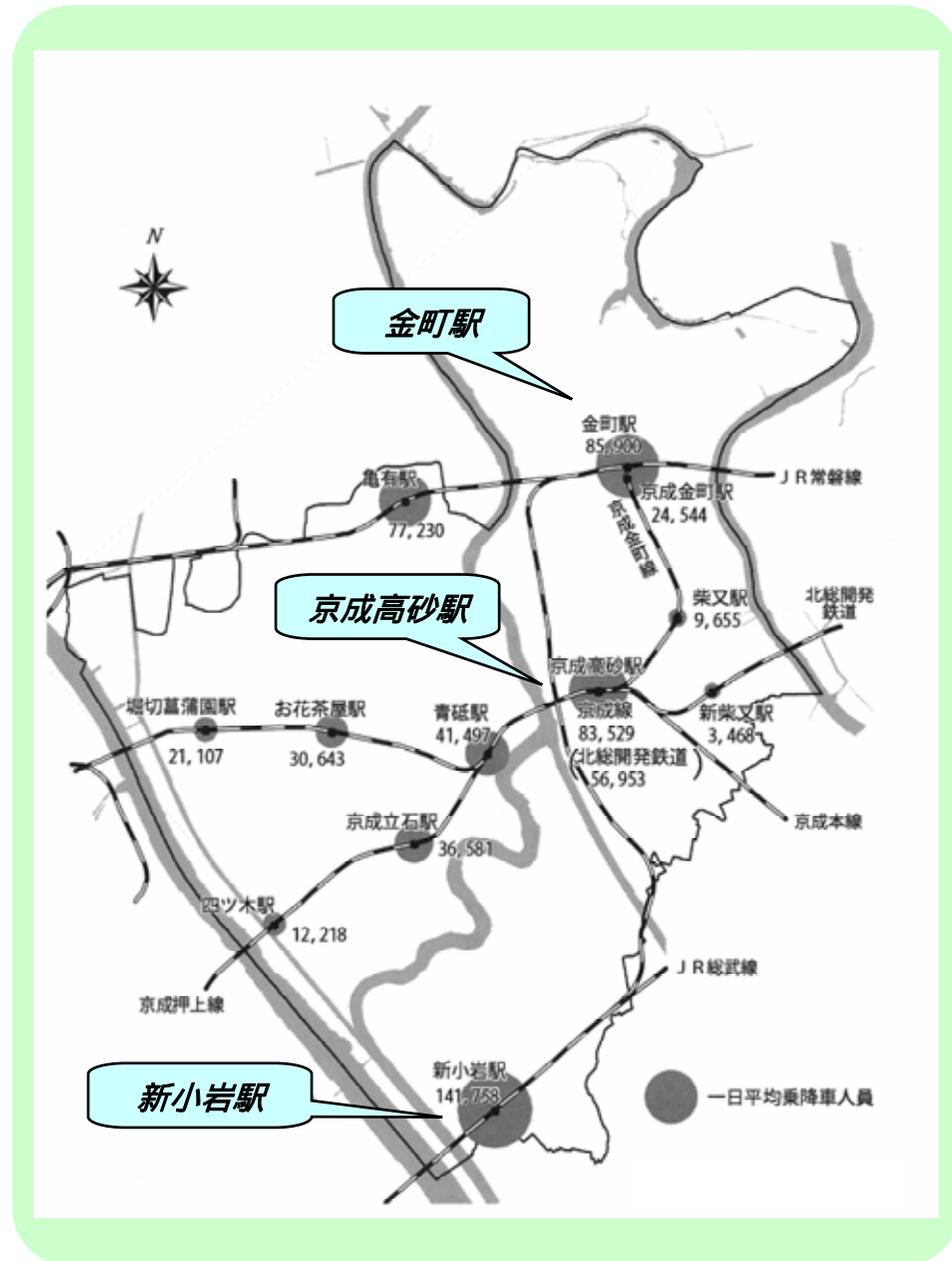


公共交通 : 鉄道

鉄道は、JR常磐線・総武線、京成上野線・押上線、北総開発鉄道の**東西方向の路線が中心**で、**東京都心と結ばれています**

京成金町線が金町と高砂を南北に結んでいます

乗降客数の多い駅は、新小岩駅、金町駅、京成高砂駅、亀有駅の順です



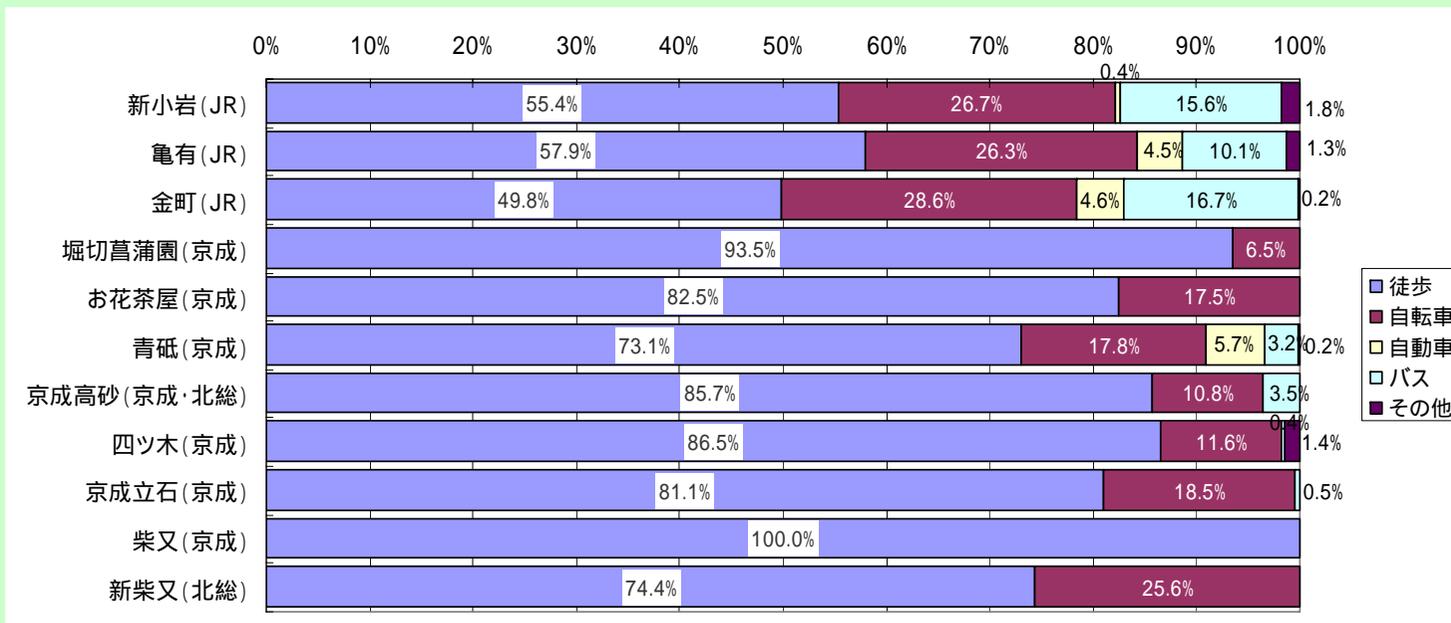
鉄道網と駅別乗降客数

公共交通 : 駅までの移動手段

駅までの移動手段は、**新小岩・金町・亀有**（JRの3駅）では、京成沿線の駅と比べ、**自転車やバスでのアクセス利用が多いです**

一方、**京成や北総線の各駅**は、**徒歩でのアクセスが7割を超えています**

鉄道駅への端末交通手段別分担率



平成17年 大都市交通センサス

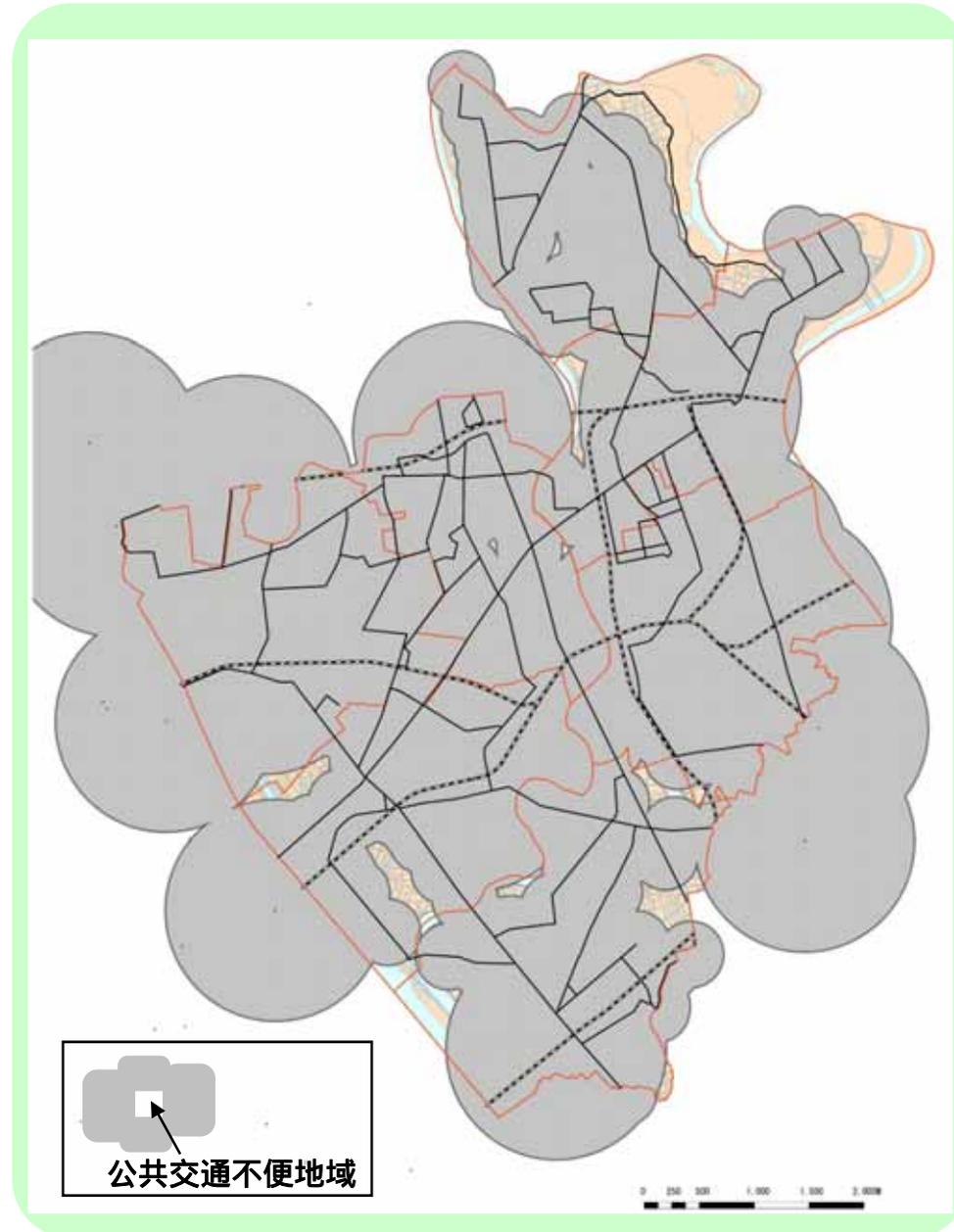
公共交通 : バス路線と公共交通不便地域

バス路線は、JR各駅と京成線の各駅を連絡する路線が多く、南北方向の公共交通の役割を担っています

鉄道とバス路線で、区内は概ねカバーされており、公共交通不便地域は、一部です

* 公共交通不便地域とは、鉄道駅からの距離が1 km以上、かつバス停留所からの距離が300 m以上離れている地域

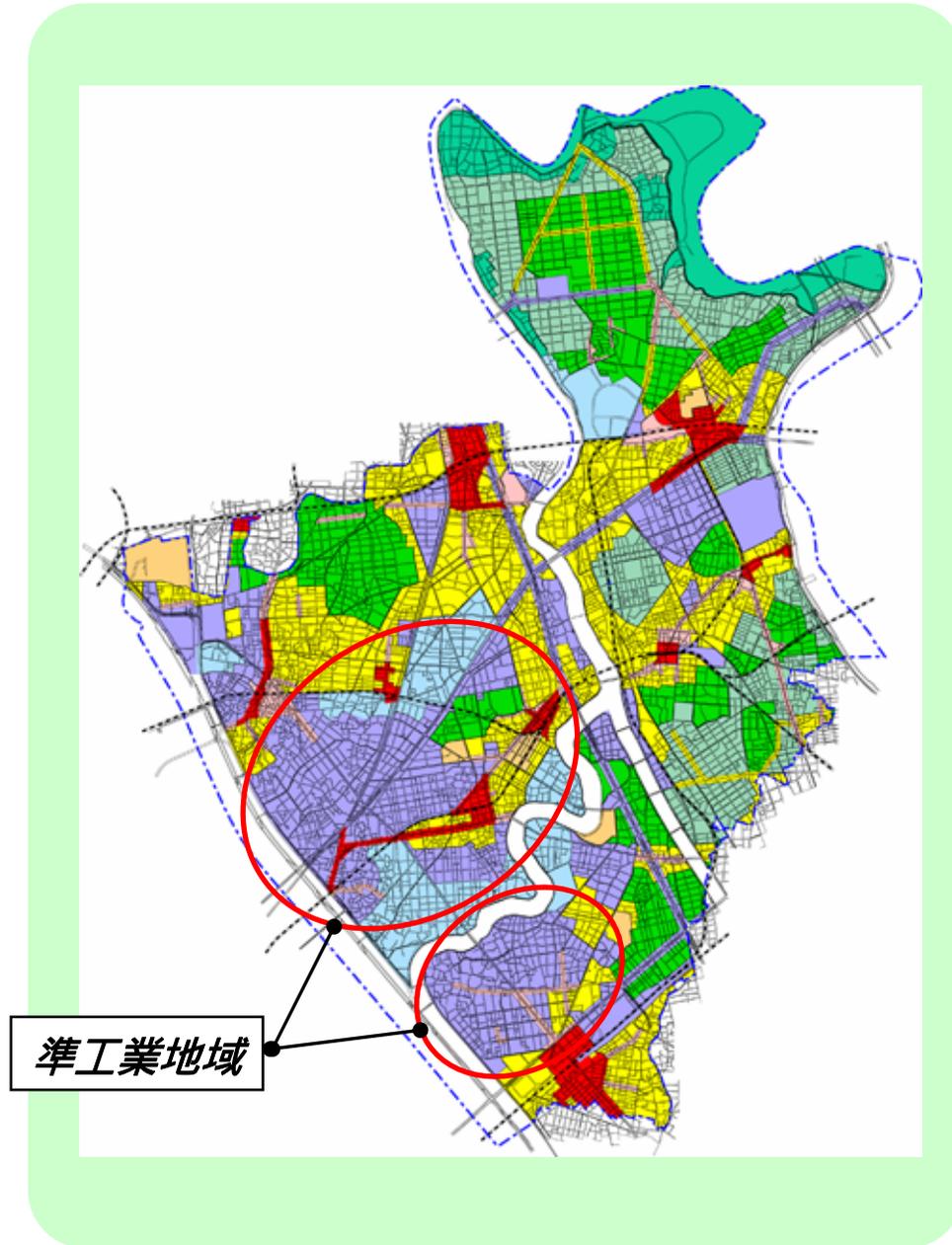
鉄道・バス路線と公共交通不便地域



都市計画 : 用途地域

本区の西側では、工業系の用途地域が多く見られますが、現在では住宅も増え、住工混在の地域に変わっているところもあります

- 第一種低層住居専用地域
- 第二種低層住居専用地域
- 第一種中高層住居専用地域
- 第一種住居地域
- 第二種住居地域
- 近隣商業地域
- 商業地域
- 準工業地域
- 工業地域



都市計画図